

株式会社precog

事業報告書

第15期

(2019年10月1日～2020年9月30日)

第 15 期 事 業 報 告

(2019年10月1日～2020年9月30日)

1. 現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

◎主要な事業内容

- ・日本財団主催 True Colors Festival 超ダイバーシティ芸術祭 事務局運営
- ・山吹ファクトリー観客創出プログラム「コネリング・スタディ」企画制作
- ・東京芸術祭「暴力の歴史」招聘制作
- ・国際交流基金主催 神里雄大／岡崎藝術座
 - 「+51 アピアシオン, サンボルハ」ペルー・メキシコ公演 制作
 - ・一般社団法人チェルフィッチュの事務局運営(「映像演劇」上海開催・札幌開催、「消しゴム山」京都公演・ニューヨーク公演、「消しゴム森」金沢公演の制作等)
 - ・一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONALの事務局運営(Shibuya QWS(渋谷スクランブルスクエア)でのスクール事業「RE/CREATION」、アジアの舞台芸術拠点のネットワーキング形成事業「Jejak-旅 Tabi Exchange」ロハスシティ開催の制作等)
 - ・一般社団法人Pの事務局運営(神里雄大、マーク・テによる「南方から「歴史」を読み換えるリサーチ・コラボレーション」制作等)

◎事業の経過および事業実施による成果(総評)

当社では創業時より、演劇のアーティストのマネジメントや、演劇作家・振付家等との国内外での作品制作・公演・イベント実施等の自主事業を、主たる事業として展開しているが、2019年9月よりTrue Colors Festival-超ダイバーシティ芸術祭-(日本財団主催)の事務局業務や、2019年10月に東京芸術劇場で行われた「東京芸術祭2019『暴力の歴史』」(東京芸術祭実行委員会主催)の制作業務等、芸術祭等による委託事業を請け負うこととなった。

True Colors Festival-超ダイバーシティ芸術祭-では、障害、性、世代、言語、国籍などあらゆる多様性を超えた社会実現を目指すパフォーマンスの芸術祭として様々な障害に対応した鑑賞サポートや客席設計の計画や運営を行うアクセシビリティ／バリアフリー対応を行い、また、東京芸術祭2019『暴力の歴史』では移民やLGBTQをテーマにした作品であったことから、オリンピック・パラリンピック東京2020大会へ向けたダイバーシティの推進が広まるなか、多様性をより尊重したバリアフリー型の舞台芸術の企画・制作・運営を志す貴重な機会となった。

バリアフリー対応に取り組む他、例年に続き、演劇・ダンス公演のイベント企画・制作も意欲的に実施した。事務局運営業務を請け負っている一般社団法人チェルフィッチュでは、新作公演として「チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』」を2019年10月にKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭にて発表、同作品の美術館公演版として『消しゴム森』を2020年2月に金沢21世紀美術館にて発表し、海外公演としてアメリカ・ニューヨーク公演を実施するなど、既存の演劇作品の概念を超えた創作活動を展開した。

さらに新規事業として、「チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』」京都公演の際、視覚障害者と親子を主な対象に「タッチツアー」(上演前に舞台上にある美術に触れ、作品のイメージを膨らませるための解説ツアー)を実施。当社では、舞台芸術業界における新規客層開拓のため、日本ではまだ普及の少ない視覚・聴覚障害者や他言語話者へ向けた、字幕や音声ガイド等の鑑賞サポートを提供し、バリアフリー化事業を始動している。この実績が評価され、来る2021年2月に開催予定の「チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』」東京公演では、文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業(文

化芸術による共生社会の推進を含む)」の採択を受け、視覚障害者へ向けた鑑賞サポートを付帯したモデル事業の実施が決定している。

この他、当社関連法人である一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL、一般社団法人Pでは、事務局業務も継続して実施。一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONALでは、渋谷スクランブルスクエア株式会社が運営する共創施設SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)にてスクール事業「RE/CREATION(リ/クリエーション)」を実施。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン配信へと事業を転換し、社会情勢を鑑みたオンラインでの創作活動やクリエーションの可能性を模索した。

オンライン配信の事業展開においては、当社運営のリハーサルスタジオ「山吹ファクトリー」に配信設備を整え、オンライン配信イベントが開催できる新規サービスを導入した。

上記経緯をふまえ、当社はバリアフリー事業の取り組みに加え、演劇・ダンス・映画・メディアアートの映像をオンライン配信する動画配信プラットフォーム「THEATRE for ALL」の企画立案を、文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」の一環として始動する。

True Colors Festival-超ダイバーシティ芸術祭-より得たバリアフリー/アクセシビリティ対応の知見を活かした人材育成を継続し、コロナ禍で劇場での上演・上映が困難である状況下においてオンライン配信へと迅速に移行できたことは、当社の今後の事業展開においても大きな成果を生むものであると期待している。

(2) 財産及び損益の状況

(単位:円)

区分	12期	13期	14期	第15期(当期)
売上高	45,388,881	68,024,158	113,238,079	113,224,349
経常利益	6,237,418	2,691,125	4,877,511	12,631,901
1株当たり 当期純利益	33,400	11,737	21,469	53,351
純資産	50,828,578	52,941,324	56,805,808	66,409,067
総資産	121,131,715	112,176,371	112,787,031	143,247,706

(3) 対処すべき課題

課題1:公演イベント中止による主力事業の売上減少

新型コロナウイルスの感染拡大によって、2020年春を期に、大人数の観客が劇場などの密閉空間に集うことを前提にしたイベントや公演は続々と中止に追い込まれ、対面型公演と海外事業の中止/延期により売上が減少している。いつ国内公演がコロナ以前との同じように実施できる社会情勢になるかの見通しが立てられず、海外公演も国によって感染拡大状況が様々のため向こう2~3年はこれまで行っていた公演事業の実施は難しいと考えている。また、もし、公演事業が実施できるようになったとしても、公演事業が実施できない間に既存観客の興味関心が薄れてしまう可能性もあり、以前と同等の発注を受けられる確証が無い状況である。

課題2:配信型イベントへの転換(公演のオンライン化)

2020年に劇場での公演を予定し、リハーサルや公演準備を行い制作費の支払いも生じている事業が中止/延期となっている。公演を発表できる場が失われたため、公演実施委託料やチケット料収

入などが得られていない。早急に公演をオンライン化して実施し、収入を得る必要がある。
 また、公演事業を実施できない状況が長期化すれば、既存観客の演劇やダンスに対する関心が薄れてしまう危険性がある。このような価値観の変容がある今だからこそ、制作した商材(公演)を発表する場が重要である。当社としても、制作したプロジェクトを市場に発表する場を確保することが次のビジネス展開に繋がるため、いち早く配信型イベント市場に乗り出すことが必要である。

課題3:人材の雇用維持

バリアフリー対応イベントの運営方法はまだ業界内でも体系化されておらず、対面型イベント(リアルイベント)のバリアフリー化を実践できる職能を持った人材は希少である。当社では、2019年より公演運営のスキルを持った人材を新たに雇用し、1年間のバリアフリー対応公演事業を通じてバリアフリー対応のノウハウと現場経験を持つ人材を育成してきた。しかし、現在その多くを休職扱いとしながら、行政からの補助金(雇用調整)を受け雇用を維持している状況である。彼らの持つ知見や技術を磨きながら勤務を続けるためにも、バリアフリー対応公演の知見を活かせる新たな事業を生みだしたい。

(4) 主要な事業内容

部門	事業内容
アーティスト事業部	<p>◎東京芸術祭「暴力の歴史」招聘制作 東京芸術祭実行委員会主催「東京芸術祭2019」直轄プログラムの海外カンパニーベルリン・シャウビューネ劇場『暴力の歴史』公演の招聘業務・制作・広報業務を受託。海外カンパニーの招聘公演における観客の年齢層が高齢化している危機を受け、10～20代の若年層への広報戦略に注力し、従来の芸術祭の観客層の開拓に努めた。</p> <p>■precogの業務 イベント／公演制作国際交流, 広報, PR</p> <p>■プロジェクト期間 2019年10月24日(木)～26日(土) 会場: 東京芸術劇場 プレイハウス</p> <p>■プロジェクト体制 主催: 東京芸術祭実行委員会 [豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバルトーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)] 製作: ベルリン・シャウビューネ劇場 制作・広報: 株式会社precog 後援: ドイツ連邦共和国大使館 / ゲーティンスタイトゥート 東京、東京ドイツ文化センター、在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本</p> <p>◎アジアの舞台芸術拠点のプラットフォーム形成事業「Jejak-旅 Tabi Exchange」ロハスシティ(フィリピン)開催の企画・制作 当社代表がキュレーターを務め、アジア諸都市で継続的に現代の舞台芸術に関する知識とノウハウを共有し、互いの文化を醸成することを目的に始動した、プラットフォーム形成事業。2020年1月のフィリピン・ロハスシティ開催では、参加アーティストが国境を超えて、地域性や喫緊的な課題等踏み込んだテーマで議論を交し、互いの連帯意識を繋げることができた。</p> <p>■precogの業務</p>

	<p>イベント／公演制作, 人材育成・コーディネート, 国際交流, 地域活性</p> <p>■プロジェクト期間 2020年1月22日(水)～25日(土) 会場: ロハスシティ(フィリピン)</p> <p>■プロジェクト体制 主催: 一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL 助成: 国際交流基金アジアセンター、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、Asia-Europe Foundation Mobility First 協力: Gerry Roxas Foundation、Colegio de la Purisima Concepcion、City of Roxas、The Water Tank / Ang Panublion Museum</p> <p>◎国際交流基金主催 神里雄大／岡崎藝術座 『+51 アビアシオン, サンボルハ』ペルー・メキシコ公演 制作 第62回岸田國土戯曲賞を受賞し、国内での評価を高めているペルーに出自を持つ神里雄大が、日ペルー交流年(日本移住120周年)の節目に、本作ゆかりの地であるメキシコ・ペルーにてツアーを開催。ペルーでの日本現代演劇上演は史上初となり、様々なメディアから取材を受け、現地にて同年トップ10の舞台作品に選出されるほど高い評価を受けた。</p> <p>■precogの業務 イベント／公演制作, 国際交流</p> <p>■プロジェクト期間 2019年12月13日(金)・14日(土) 会場: テアトロ・ベニト・フアレス(メキシコシティ・メキシコ) 2019年12月19日(木)・20日(金) 会場: アリアンス・フランセーズ・リマ(リマ・ペルー)</p> <p>■プロジェクト体制 主催: 国際交流基金 共催: メキシコ市立劇場 製作: 岡崎藝術座、株式会社precog 制作: 株式会社precog</p> <p>◎舞台芸術に携わる法人・劇団等の事務局運営 (一般社団法人チェルフィッチュ、一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL、一般社団法人P、岡崎藝術座 等) 国内外で活動を展開する法人や劇団等の事務局として、公演等の企画や制作を担当。約15年かけて構築してきた人脈や蓄積された知見を活かし、舞台芸術界を牽引する中堅アーティストから新進アーティストまで、これまでに様々なアーティストとの協働により培った知見を、各法人、岡崎藝術座へも展開し事業を開拓。今期は、国内のみならず、上海(中国)、ニューヨーク(アメリカ)、ブラウンシュバイグ(ドイツ)など世界各地で様々なアーティストと公演制作を行い、日本の舞台芸術発展に尽力した。</p>
<p>バリアフリーコミュニケーション事業部</p>	<p>◎日本財団主催 True Colors Festival 超ダイバーシティ芸術祭 事務局運営 パフォーミングアーツを通じて、障害・性・世代・言語・国籍など、個性豊かな人たちと一緒に楽しむことを目的に計画された芸術祭「True Colors Festival- 超ダイバーシティ芸術祭 -」のフェスティバル運営事務局の統括を受託。</p>

	<p>プロジェクトを通し、アクセシビリティ対応への見聞と知見を獲得し、舞台芸術の視野を広げるためのアプローチを体現することができ、今後の事業展開の足掛かりとなった。</p> <p>■precogの業務 アクセシビリティ／バリアフリー対応, イベント／公演制作, 人材育成・コーディネート, 国際交流, 票券／客席デザイン</p> <p>■プロジェクト期間 2019年7月～2020年4月</p> <p>■プロジェクト体制 主催: 日本財団 共催: 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 特別協賛: 東急グループ、TikTok 協賛: Facebook、Twitter Japan株式会社、ヤフー株式会社、CINRA.NET、タイムアウト東京、渋谷キューズ、パイオニア株式会社 字幕協力: 株式会社NHKグローバルメディアサービス 後援: 渋谷区、日本障害フォーラム True Colors事務局運営: 日本財団、日本財団DIVERSITY IN THE ARTS、株式会社ロフトワーク、株式会社precog、一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL</p> <p>■関連リンク 公式サイト: https://truecolors2020.jp/</p> <p>◎バリアフリー型のオンライン劇場「THEATRE for ALL」始動に向けた業務計画 障害当事者やそのサポートをする方々への取材を重ね、世界初のアクセシビリティに特化したオンライン劇場「THEATRE for ALL」を企画し、令和2年の『文化庁収益力強化事業』に採択され、文化庁からの受託プロジェクトとして始動させる。 演劇、ダンス等の作品映像の配信に加え、各作品をより深く味わうためのラーニングプログラム開発、障害当事者への取材や場のづくりを行うコミュニティ開設等を通じて、これまで劇場にアクセスしづらかった顧客層に対してアクセシビリティを高めていくための仕組みづくりを企画している。</p> <p>■precogの業務 作品のオンライン配信, アクセシビリティ／バリアフリー制作, 広報・PR, 教育普及, 票券／客席デザイン</p> <p>■プロジェクト体制 主催: 文化庁 令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業『文化芸術収益強化事業』 バリアフリー型の動画配信プラットフォーム事業、株式会社precog 企画制作: 株式会社precog</p>
--	--

(5) 事務所、従業員の状況

主たる事務所	〒152-0022	東京都目黒区柿の木坂一丁目24番15号
--------	-----------	---------------------

従業員	アーティスト事業部	7名
	バリアフリーコミュニケーション事業部	9名
	アドミニストレーション部(管理部門)	6名

2. 株式に関する事項

氏名	持株数	株式持株比率
有光茜	180	100%

3. 役員に関する事項

役員の名前及び職制上の地位及び担当

地位	氏名	担当	重要な兼職
代表取締役	有光茜	経営計画	一般社団法人P代表理事 一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL理事

以上